

青海黒姫山

北信頸城

旭橋より

1994年3月19日（晴れ）

メンバー：L酒井正裕，工藤康行（会員外）

国道8号線からセメント工場の看板に導かれ、青海川沿いに車を走らせる。やがて橋を渡り、セメント工場を右手に青海川を左手に見るようになると、パイプラインの敷設されている橋（旭橋）の下をくぐる。車はこの橋をくぐった先に止め、車の中で仮眠する。

今日は、できればこの他に別の山に登りたいので暗いうちに出発する。しかし、ぼんやりと見える山は岩ばかりでスキーなど全くできそうな感じはない。もともと、この山は他の山を登った折りにいつもその豊富な積雪量があるのを確認しており、それだけを手がかりに登りにきただけであるので少々不安になる。工藤氏が本当にスキーなどできるのかと訝っているは当然のことだと思った。大体この山を山スキーの対象として考えること自体、誰もいないかもしれない。少なくとも、このスキールートが雑誌に載れば、私たちが初めて一般に紹介したことになるのは間違いないだろう。

そんなことを2人で話しながら、旭橋を渡り、これに続くセメント工場の専用道路（除雪・舗装されている。）を歩く。道は標高500m付近でY字路となっており、左に進むと直ぐに道は雪で埋まっている。更に雪の上を道なりに進むと、やがて採掘場の広い雪原となっている。この雪原を直進し、正面の支尾根に取り付く。少し藪がうるさいがそれも直ぐに終り、正面に993mピーク（前山）に続く標高差約500mの

大斜面が望まれる。私は、この斜面を見てやっと先程の不安は解消した。ここから前山までは、前山に直接突き上げる雪の斜面途中から右に派生している雪の斜面を登る。工藤氏はあまりの急斜面(38度)であるのと、カンジキを持ってこなかったためになかなか前に進めずかなり苦勞して登った。

前山に着くと、積雪量も多くなり一変して山の感じも女性的で伸びやかなものとなる。山頂は前衛の山並みに遮られて望めないものの、先程の緊張感の漂う急な登りと異なり、広い尾根を妙高・海谷山塊を見ながらのんびり登る。標高1100m辺りから、小さなアップダウンを越えながら進むと黒姫山の最後の登りとなる。ここは、広い斜面となっている。稜線に出ると、コンクリート造りの社殿のある山頂までは直ぐであるが、尾根が痩せていることからスキーは頂上直下にデポする。頂上からの展望は、北アルプス北部や妙高・海谷山塊の山々の眺めがよいが、頂上直下北面に広がるカルスト地形特有のドリーネ台地は一見に価する。例えば悪いが、たこ焼きの鉄板を思い出していただければ、そのものズバリである。

ここからは往路を戻すが、前山までは広い斜面を自由気儘に滑ることができる。稜線は途中小さなアップダウンはあるが、シールを着け直す必要はなく、特に頂上直下と標高1100mから1000mにかけては、斜面も広く楽しいスキーとなった。前山からは、このピークを左に巻き気味に進み、下部斜面の滑り出し地点に出る。この斜面の上部はかなり急でやや狭いため初心者には無理であるが、滑るほどに広くなり、申し分のない滑りが楽しめた。この斜面が終れば雪で埋まった広場を直進し、更にそのまま真っ直ぐ滑り下りれば先

程のY字路にでた。あとは、除雪された林道を歩くだけである。振り返れば先程滑った急斜面が望まれ、ルートを巧みに採ることによって、この山の標高からは想像できないような快適な山スキーができたことと山スキーの可能性を改めて認識させられる好ルートを滑った満足感がこみあげてきた。

ショートルートながら今迄で最も印象に残る山行の一つとっていいかもしれない。

タイム：

旭橋先(4:50)-前山(9:30)-黒姫山(11:50/12:40)-Y字路(14:00)-旭橋先(14:40)

(酒井 正裕 記)

ルート図 青海黒姫山

